

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	浅原 佳江
所属機関名	生命科学部 医療技術学科
職位	講師
在籍年	0 年

教育の責任

医療技術学科では、国家資格の取得を目指すために必要な知識・技術の基礎を学ぶとともに、将来の医療人の人材育成を行う必要がある。そのため、臨床工学技士として現場で培った経験を生かした教育を徹底する。臨床工学技士を目指す学生に「さまざまな医療技術の基礎を VOD や PPT を用いて理解できるようにする」「教科書の内容と医療現場の内容がマッチするように、多くの事例紹介をする」「医療技術の獲得に向けて、実際の医療行為を授業に取り入れるために、シミュレーションができる環境の構築と維持をする」。臨床工学コースの専門実習科目はすべて担当となっている。

教育の理念

(1)医療の発展につながる教養を付加する

臨床工学技士国家資格の取得に必要な基礎知識を習得するために、VOD の活用を普及する。そして、各医療行為におけるイメージを高めた授業を提供する。また、現在の医療行為だけではなく、将来の医療を見据えた医療技術についても想像できるよう、実際の現場で起こっている様々な情報を取り入れる。学生に必要な教養を、授業・実習・研究を通して学生に伝授する。

(2)サイエンスマインドを基礎とした、医療領域への知識を高める。

生物学だけでなく工学の技術を組み込んだ臨床工学分野への関心を高めるために、工学技術を取り入れた医療技術の開発や情報提供に結び付く卒業研究を行う。

教育の方法・方針

臨床工学領域の全実習（生体機能代行装置学・生体計測装置学・医療治療機器学・医用安全管理学・基礎医学）

(1)事前学習を推進する：

知識の確認と共有のために、学生同士のディスカッションを行っている。各自事前学習した内容を学生同士でアウトプットすることにより、知識の再確認をすることができる。また、自分の苦手な領域を自覚することもできる。

(2)シミュレーションを通した、チームとしての医療の重要性を認識する：

最終学年で履修する病院実習を視野に入れ、実際の医療現場で行われる医療行為を、大学の環境を最大限に生かして、模擬体験ができるよう工夫する。そのために、シミュレーション実習、シナリオロールプレイ実習を取り入れている。

(3)タイムトライアル・VOD の活用：

各医療行為を行うための準備業務を、制限時間を設けて、緊張感と時間の意識を持たせるための実習を取り入れる。学生同士で時間の意識を持ちながら医療の現状を感じ取ってもらうようにしている。必要に応じて動画撮影と動画を用いた振り返りを行うことで、学生が取り組ん

だ内容について議論をすることができる。また復習をするための材料にもなる。

教育の成果

授業アンケート結果

(1)生体機能代行装置学実習Ⅰ：

アンケート評価では、満足またはほぼ満足と回答した受講生は、100%であった。また「実際に機械に触れ、病院での仕事を聞くことができたのでわかりやすく授業できた」とのコメントがあった。

(2) 基礎医学実習：

アンケート評価では、満足またはほぼ満足と回答した受講生は、87%であった。また「難しいところがあっても丁寧に教えてくれて理解度が深まった」「このレッスンの学習領域は深まりました」とのコメントがあった。

(3)チーム医療概論：

アンケート評価では、満足またはほぼ満足と回答した受講生は、100%であった。また「医療現場で最も大切であるコミュニケーションも、わかっていながらどうすれば良いかわからなかったのも、とても為になりました。」とのコメントがあった。

全体を通して、学生にとって、実習科目に特色を生かした内容を展開することで、学生の理解や意欲が向上したと考える。

今後の目標

(1)医療現場に合った教育の推進と技量の意識を高めるためのツールの作成

臨床現場の経験を活かし、学生に、現場でも通用できる技術と知識を伝達するように努める。そして、学生自身が一定の技量の習得状況を確認するための実技試験を取り入れるために、実技試験の評価基準を標準化する。そして履修者全員が技量の獲得状況を把握できるためのシートを作成する。

(2)イメージ化しやすい資料の作成

各医療技術は日々進化しており、新技術が取り入れられている現在、学生が学ぶ必要のある教養は増加している。その教養を習得しやすくするための資料を VOD や PPT による製作を継続する。その資料を振り返ることで、医療の変化について理解する。さらに今後必要となる新たな医療技術を想像できる視点を確保できるようにする。

根拠資料

実習で配布するテキスト・資料、授業アンケート、VOD 資料